

令和2年度協働事業負担金協議対象事業（継続事業）

審査会から付された意見

【一般部門】

提案者：特定非営利活動法人ABCジャパン

事業名：外国につながる子ども・若者と家族の包括的支援

審査結果：負担金額5,400千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

公教育や行政の支援の手が十分に行き届きにくい外国につながる子どもたちへの学習環境を充実させ、保護者が主体的に子どもの教育に関われるように情報提供などのサポートをされることはとても重要であると認識しています。

また、多言語によるキャリア支援を行い、様々な問題で将来の夢がもちにくい若者や保護者が具体的なビジョンを描くきっかけづくりを行うことも重要である一方で難しい課題であると思います。

そんな中、貴団体の課題解決に向け、果敢にチャレンジされる姿には、本当に感謝いたします。

さらに、前回の審査会意見に対し、真摯に検討いただき、重ねて感謝致します。

「ボランティアとしての支援に関わることができる人員の母数拡大」に関しては、多文化共生の出張授業で関わりをもつようになった大学のボランティアセンターなどへの積極的な働きかけや、日本語教育実習生の受入れ態勢を整えたりしたことで、学生ボランティアの増加につながっていることは、大変すばらしいことです。

また、貴団体の活動を紹介される機会が増えたことで、社会人からもボランティア希望の問い合わせが増えていることも、これまでコツコツ積み上げてこられた活動の成果が着実に実を結んでいるものと思います。

さらに、早い段階での事業の自立化に向けた道筋を描くために、全国的にニーズのある電気工事士の国家試験対策講座や、大人のための日本語講座をWeb展開していく準備をされているとのこと、自立化にむけた大事な軸になってくると思いますので、是非、継続的に頑張ってくださいと思います。

今回の提案に関し、事業1の「不登校・学齢超過等の子どものためのフリースクール」では、鶴見に加え、藤沢地域への発展的な展開を目指されています。社会環境の変化などから、これからも増々ニーズが増える可能性が見込まれると思います。

そのため、貴団体の強みをしっかりと具体的に分析され、同地域で既に同様な目的で活動されている他団体などとのコラボレーションなども、是非、検討いただき、よりよい展開につなげていただきたいと思います。

事業2「大学進学ガイダンス・キャリア支援セミナー、保護者への多言語情報提供」、事業3「多言語版キャリア支援・大学進学ガイドブック等発行」も大事な事業である一方で、事業1と同様、増々増えるであろうニーズと、貴団体の強み、他団体の強みをうまく融合して、より多くの外国につながる子ども・若者と家族の包括的支援につなげていただき、多くの笑顔が広まるよう、心より応援しております。

【一般部門】

提案者：特定非営利活動法人横浜こどもホスピスプロジェクト

事業名：横浜こどもホスピス設立運営事業

審査結果：負担金額 8,500 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

曲折はありましたが、2021 年夏にも、こどもホスピスが開設されることとなりました。

これまで開設の土地・建物についてなかなか決定が得られなかったため、活動にも苦労があったと推察します。事業の実現まであと一息となったことで、準備にも一層力が入るのではないのでしょうか。

本事業実施にとっても大切な人材育成も、しっかり取り組みを行っていると感じられました。

研修事業については、その費用を今後は参加者が自己負担する方向とお聞きしました。

それにより研修で学ぶ意識がこれまで以上に高まり、知識もさらに蓄積されるのではないかと思います。有用な人材が次々に生まれることを期待しています。

研修事業として神奈川県内のみならず、他地域の医療関係者や学生を対象に有償で人材育成も担う予定とのこと。この取り組みにより、こどもホスピス開設後にも一定の収益が見込めることになれば、事業安定の一助にもなります。

それだけでなく、これまでに得たノウハウを広い地域の方々に還元することは社会貢献にもなり、この事業の重要性をさらにアピールすることにもつながるでしょう。

実施した人材育成事業については満席に近い参加者が集まったと伺いました。

一方で、啓発事業のコンサートについては、集客に苦戦したという課題もあったとのことですが、事業実施の決定によりこどもホスピスの場所が確定したことは、今後の啓発事業や、それを通じた企業協賛の獲得などにも好材料になるとの見通しもありました。

啓発事業を企業協賛に結びつけるような戦略的な取り組みも必要かと感じました。

今後は担当部署との協働をより深め、課題解決につなげることを期待しております。

ホスピスは、亡くなっていく方を受け入れるための施設と考える方が、まだ多数派だと思います。神奈川県発の「こどもホスピス」を通じ、患儿が楽しく過ごせ、その家族を支える場であるということを、広く伝える役割も果たしていただくことを望んでおります。

そのためにも運営人材の育成には、国内の先行施設での研修のみならず、今回の事業の対象にはなっていませんが、歴史を持つ海外のホスピスでの研修なども行うことができれば、さらに事業に厚みが増すのではないのでしょうか。

【一般部門】

提案者：特定非営利活動法人鎌倉あそび基地

事業名：フリースクール等学校外の学びの場の必要性の周知を目的とした県域ネットワーク構築事業

審査結果：負担金額 6,100 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

子どもたちを中心に置きながら、様々な団体や地域内での連携を図り、色々な人の支えによって子どもが育っていくことには、モデル性が認められ、評価されるところです。

令和2年度の計画を変更し、「エンカレ」を立ち上げず、別事業の中に入れて継続していくこと、さらに WEB サイトの制作を前倒しで行っていくことについても、妥当と判断されました。

そうした中で、昨年度の審査会意見として指摘された人件費の高さという点について、「人材の質の担保のためには、人件費の一定水準の確保が必要」という貴団体のご意見に反対するところはありません。

しかしながら、「事業の継続」という最大の使命を果すには、経費に見合った収入を得ていくことが不可欠です。プレゼン時の質疑応答で、これについてご回答を得ておりますが、第三の事業の立ち上げも含め、協働負担金終了後の自立化の見通しについて、具体的な収入見込みの整理までには至っていない印象を受けましたので、再整理をして頂ければと思います。

また、経費抑制のための事業効率化という観点からは、WEB サイトの制作について、一定のスピード感を持って取り組んでいって頂きたいところです。

最後に、県との協働事業の成果を常に強く意識しながら、今後の事業に取り組んで頂くことを期待いたします。

これまで強く連携を図ってきている鎌倉市に加え、県や連携協議会との連携度も一層高めて頂くことが望まれます。県の協働部署との密なコミュニケーションの下で、事業の取組結果を検証し、貴団体に求められている役割を確認しながら、子ども達の笑顔のために、これからの事業を有効に進めていって下さい。

【一般部門】

提案者：特定非営利活動法人 YUVEC

事業名：隙間時間活用による高齢者職場還流プログラム推進事業

審査結果：負担金額 2,885 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

雇用者側のニーズを重視しながら、技術と経験の豊かな高齢者雇用の環境を整備していくという独自の視点、アプローチで、県プロ人材活用センターとの連携はじめ、県との協働も具体的な形で進んでいる点、基金 21 の事業の趣旨にかなったものと考えます。

課題としては、本事業が自立して持続していくための収益モデルの設計が挙げられます。

この点については、中小企業からの「年会費／コンサルティング料」の獲得が不可欠と認識しますが、これらは中小企業から、安心や信頼が得られて初めて成り立つものです。

中小企業の開拓活動に際しては、関係者それぞれのネットワークを駆使されているとのことでしたが、それらに加え、さらに組織的な仕組みを充実させる方向で、限られた予算を効率的に集中されることを期待します。

また、次年度計画では、三つの事業が一本化された書き方となっていますが、事業進捗の管理を容易化するためにも、事業提案に沿って分割した予算立てを検討いただければと考えます。

なお、参入障壁は低いようにも思えますので、マーケティング発想を持ち市場変化の情報収集・分析し、早期に課題を見つけ出し解決し、神奈川県との協働事業活動であること、特定非営利活動法人であること、平成 30 年に無料職業紹介の事業許可を取得していること、同様の事業会社との費用負担が軽減できることなど、既に獲得している強みを積極的に活用することで、中小企業に対し「安心や信頼」を与えることができ、その結果、会員獲得や高齢者の職場還流へと早期に繋がる可能性があるのではと考えます。目標達成を期待しています。

【課題部門】

提案者：特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

事業名：「食」と「地域」をつなぎ神奈川から貧困をなくすための K-Model 構築事業

審査結果：負担金額 2,000 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

これまで大きな構想として描かれていた「K-Model」が、具体的にビーバーリンクとして複数の地域で具体化したことは大きな進展と考えます。

ただし、皮切りである武蔵新城のケース等は、既に活動実績のある地域の担い手の力も大きいと考えます。

それに対して、茅ヶ崎の事例は、県との協働を生かして新しく拠点づくり、ネットワークづくりから取り組む点で、よりモデル性が高いと考えます。

今後は、既存の活動やネットワークが手薄なところでのビーバーリンクのきっかけづくりを重視いただければと考えます。

さらに、当初の目標である『「食」と「地域」をつなぎ神奈川から貧困をなくすための K-Model の構築事業』、とりわけ「貧困をなくす」に、上記の仕組みが直接的、間接的にどのような効果を発揮しうるのか、探求を深めていただきたいと考えます。

また、ビーバーリンクの商標登録については、関係者の方々の十分な理解が大前提となります。特に権利関係について、慎重な対応をお願いします。

【特定課題枠】

提案者：特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン

事業名：造血幹細胞移植総合支援プロジェクト事業

審査結果：負担金額 5,750 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

事業開始当初より独自のポータルサイト「START TO BE」を立ち上げ、専門家の監修のもと利用者が必要とする質の高い情報が提供されています。サイトには、当事者や支援者、専門家などのインタビューを掲載し、利用者に寄り添った支援がなされています。サイトからのサポーター登録者や Twitter のフォロワーも多く獲得しており、また、国内最大級のフォーラムを開催するなど、着実に実績を積み重ねています。

「骨髄移植を考える会」との役割分担にもとづく事業の実施は、県協働部署からの評価も高く、協働事業としての充実が伺えます。

当事者や支援者、専門家に対する情報提供が充実しているのに対し、骨髄移植を支える「一般」の人たち、特に若者に対するアプローチは、高校や大学への働きかけが進められてはいるものの、その成果は必ずしも明確ではありません。事業目的に照らし合わせてターゲットを明確にし、必要な働きかけがなされることが必要と思われれます。

特定課題枠として、提案された事業が 3 年目の区切りをむかえます。ポータルサイトの維持を含め、資金的にも人的資源的にも事業が継続できるよう、事業目的の達成とともに将来を見据えた事業の遂行を期待します。

【特定課題枠】

提案者：神奈川骨髄移植を考える会

事業名：骨髄ドナー登録推進事業

審査結果：負担金額 4,250 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

今年度は協働事業3年目ということになります。本事業は県内の各地域でドナー登録講座を開催し、ドナー登録者を増やすということを目的にしていますが、これまでの活動から登録者が増加し、その成果が着実に現れているようです。

講座に参加したがん患者自身を説明員として雇用し、当事者の自立と社会復帰を促すという取り組みは、新たな視点・発想で先駆性が感じられ高く評価できます。

また、若年層への啓発活動の推進という点では、企業や大学へのアプローチが進み、その効果も現れ始めており、今後の展開が楽しみです。

キャンサーネットジャパンとの協力体制も相乗効果をもたらしており、さらなる連携を期待しております。

今後は、本事業をより継続的、発展的なものとするために、安定した資金の確保が必要と思われまます。そのためには寄付促進に向けて、NPO法人、更には認定NPO法人を目指し、団体の基盤強化を図っていくことが必要ではないかと考えます。

【特定課題枠】

提案者：特定非営利活動法人横浜移動サービス協議会

事業名：アクティブエイジ応援プロジェクト

審査結果：負担金額 6,200 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

ホンダ・カーズ(企業)やかながわイレブン(企業連合)などの企業との連携が進み、本事業の中心となる「現役世代からの社会参加の促進」が図られていること、また地域ケアプラザの生活支援コーディネーターとの連携、団地自治会との共催による研修会の実施、サポーターデータバンクの完成など、取り組みの幅と深度が確保されていることは評価される所です。

さらには、本事業の研修に参加した修了者が貴団体の事務局スタッフとして活動を始めている等の実績が得られている事も素晴らしい成果です。

令和2年度事業計画における、事業1と事業2を統合して実施するという提案については、妥当と判断されました。事業の仕切りをなくすことで、より多くの現役世代から定年近くや退職直後の世代の方々が社会参加への関心を持ち、一過性の研修や経験にとどまらず、活動を継続していくことを期待しております。

一方、企業向けセミナー開催に向けた企画において、企業における障がい者雇用・採用や、雇用した障がい者定着化等のニーズ調査の結果が、その後の現役世代の社会参加を促進するセミナーにどう結びついていくかが見えにくい感があります。

本事業における「現役世代からの社会促進」のモデル構築に、まだ試行錯誤的な部分が残されているようにも思われました。

令和2年度は事業最終年度に当たることから、アクティブエイジ応援プロジェクトの目的達成のため、貴団体の今までの実績や本年度の事業成果をベースに、福祉分野の社会活動を志向する人材の発掘に向け、企業開拓への取り組みを強化し、実践機会の提供がスムーズに進むようサポーターデータバンクの有効活用等に取り組んでいただくことを期待します。

さらに、県域への波及に向け、事業モデル(仕組みづくり)の確立、さらには協働事業負担金終了後の自立化を図るため、事業収入を高めるなど、資金確保等にも努めていただくとお願いいたします。

【特定課題枠】

提案者：特定非営利活動法人湘南スタイル
事業名：湘南ワンハンドレッドプロジェクト

審査結果：負担金額 6,000 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

人生 100 歳時代における豊かなワーク・ライフのために、現役世代である 40～50 代に、地域に関わりながら、これからの働きかた・くらしかたを実現していく機会を創出することは、重要であり、かつ難しい課題であると認識しています。

そんな中、常に前を向き、果敢にチャレンジしていただいていること、本当に感謝いたします。

前回の審査会からの意見と真摯に向き合っていただき、SDGs に関連づけた地域の取組を共有しあうイベント「TAKURAMI フェス」の開催や、コラボ企画である大手企業のコミュニティ「ONE JAPAN」との連携によるハッカソンイベントの開催など着実に事業を進めていただいたことは大変ありがたく、すばらしいことだと思います。

さらに、プロジェクト創出事例では、レジェンドシニアによる NPO 法人セカンドワーク協会の誕生があり、これからへの大いなる期待ができるところです。

また、今回「まちのキャリアラボ」「湘南 100club」「企業人のための越境プログラム」が、さらに進化する提案をいただきました。

特に、企業人のための越境プログラムでは、ボランティアや自主活動だけではない、事業性を持った持続可能な仕組みをつくられることを目標とされており、多いに期待しています。

中でも、コラボ企画の仕事旅行社との連携による気軽な体験ツアーや、NPO 法人サービスグラントとの連携による「プロボノチャレンジ KANAGAWA」などは、とても発展・成長の可能性に秘めている連携で、とても楽しみです。

一方、貴団体は、これまでの果敢なチャレンジからなる、コミュニティビジネスとしての実績があります。

さらには、今回が基金事業最終年であることから、かながわボランティア活動推進基金 21 のボランティア団体成長支援事業であり、中間支援の役割である NPO 法人サービスグラントとの連携などにより、プロボノなどを活用した業務委託費等の削減等に取り組んでいただき、それらに付随する可能性を秘めた、企業などへの越境プログラム提供の収益化の軸を是非確立してください。

そして、事業自立・継続のスタートがスムーズにきれるようにチャレンジしていただきたいです。

これからも応援していますので、是非頑張ってください。

【特定課題枠】

提案者：特定非営利活動法人湘南港マリンセンター
事業名：江の島セーリング魅力発見プロジェクト

審査結果：来年度は継続事業は認めない。ただし、令和3年度については、継続事業（特定課題）として再度提案することを認める。

来年度の本事業の採択は、残念ながら見送らせていただくことにいたしました。

初年度（令和元年度）の申請で示された、「特定課題」解決のための事業は、国際交流事業、障がい者・子ども・高齢者等のセーリングに接する機会の提供、レース観戦解説者の養成、等でした。

貴団体は江の島湘南港を支える有力な市民団体として、国際大会等があった場合は支援・協力にかり出されますが、しかし事務局の運営担当者は実質一人であるため、特にオリンピックを控えた今年度も、報告書にあるように、大変なご苦勞があることと思います。

令和2年度は、オリンピック開催年のため2～8月は、江の島は閉鎖となり、貴団体は競技の運営協力に入ることになるとのことです。

そのため、提案された事業は、9～3月の下半期のみの実施の提案となっております。

今回の提案内容について検討しましたが、「セーラーの普及・育成事業」として、セーリング体験者を30名増やすための事業提案となっており、初年度に提示の「特定課題」との関連性が必ずしも明確でなく、課題解決へのビジョンが見えませんでした。

また、おそらくオリンピック終了後も、事務局は、むしろ後片付けや記録整理などを含め、依然、種々多忙を極められることと推察されます。

そこで、審査会としては、今年度の事業成果や、来年のオリンピック開催経験などを踏まえ、日本及び県内でのセーリングの今後の課題と取り組みの有り方などの分析を、貴団体内で行っていただき、協働部署とも協議を行いつつ、しっかりと計画を立て、令和3年度に、新たに特定課題への取り組みを明確にされた上で、再度提案していただくことを期待したいと考えます。

【特定課題枠】

提案者：特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド

事業名：子ども支援活動地域サポート推進事業

審査結果：負担金額 5,234 千円を上限に、協働部署と協議することを認める。

事業 1 のセミナーについては未来セミナー、応援団セミナーともに着実に実施され、予定の参加人数には至らないとはいえ、徐々に浸透していると考えます。

本事業の目的はサポーターの発掘・育成にあると考えますので、セミナー参加者が次のステップに踏み出せる働きかけを充実させていただくとよいと考えます。

また、プレゼン中、参加者が計画を下回る要因として、内容的な難度が高かったのではないか、との分析がありましたが、サポーターとして、ある程度、下地のある方を想定しているのか、関心がありつつもこれまで子ども支援活動にきっかけを見出せなかった方も含むのか、ターゲットを明確にした上で、セミナー内容の難度を適正化していくことが必要と感じました。

事業 2 については、ネットワーキングやコーディネートが軸となりますが、その内容について、プレゼンの中では、貴団体の助成団体相互のネットワークを想定されているとの回答で、やや限定的と感じました。より幅広い担い手を結び、子どもを中心において、その子どもたちの顔が見えるような中間支援のあり方（コーディネート）を構築していただくよう、お願いいたします。